

2019 年度

# 環境活動レポート



 太陽油脂株式会社

太陽の恵み  
人にやさしく地球にやさしく



発行日：2020年06月30日

目次

1 組織の概要 ..... P.3

2 対象範囲 ..... P.3

3 環境経営方針 ..... P.4

4 環境管理実施体制 ..... P.5

5 環境目標 ..... P.6

6 環境活動計画 ..... P.6 - 7

7 環境目標の実績 ..... P.7 - 8

8 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組 ..... P.9

9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無 ..... P.10 - 11

10 代表者による全体評価と見直しの結果 ..... P.11

11 その他環境経営活動報告 ..... P.12 - 15



# 1 組織の概要

**事業所名及び代表者名**  
 太陽油脂株式会社  
 代表取締役社長 中山 悟

**所在地**  
 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 2-7

**環境管理責任者及び担当者連絡先**  
 環境管理責任者：施設グループ GL 金井 一徳  
 TEL：045-441-4962 FAX：045-441-9671

## 事業の概要

- ① **事業内容**      **加工油脂部門**：ショートニング、マーガリン、その他食用加工油脂および油脂加工品の製造販売  
  
**石けん・化粧品部門**：家庭用・業務用石けん、シャンプー、ハミガキ類、化粧品の製造販売
- ② **事業規模**      **生産量**：70,091 t / 年（食品 68,714 t / 年）  
**従業員数**：258 人（2020 年 4 月現在）  
**延べ床面積**：14,638.46㎡

# 2 対象範囲

**認証・登録範囲（2009年認証取得）**  
**加工油脂部門**：ショートニング、マーガリン、その他食用加工油脂および油脂加工品の製造販売  
**石けん・化粧品部門**：家庭用・業務用石けん、シャンプー、ハミガキ類、化粧品の製造販売

**レポートの対象期間及び発行日**  
**対象期間**：2019 年 4 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日  
**発行日**：2020 年 6 月 30 日

当社は2019年（令和元年）に創業100周年を迎え、次の100年に向けて更なる飛躍を目指し邁進していただけることを大変誇りに感じております。これも偏にお客様、お取引関係先様のご支援ご厚情の賜物と深く感謝申し上げます。当社の理念「太陽の恵み 人にやさしく地球にやさしく」の下、皆様と共に歩むことができた歴史に感謝し英知と創意工夫を加え100年先も燦々と輝き続ける企業を目指して参ります。環境経営はこれを実現するために重要な活動と位置づけ環境経営方針を掲げます。

A-KE002-05-0  
改訂日 2019年 12月 12日

## 環境経営方針

太陽油脂は、「誠実をモットーに、確かな技術とつくり精神に裏付けられた、人と、地球に優しい、安心・安全な製品の提供と各種の経営活動を通じて、心豊かで健康的な暮らしと社会・自然の持続可能な発展に貢献します」と掲げた企業理念の下に、以下の環境方針を定めます。

1. 環境、社会との共生に視点を置いた企業活動
  - 1-1、太陽油脂は重要な社会的課題・環境問題に真摯に対応する経営の実践を通じて社会的責任を果たしていきます。
  - 1-2、太陽油脂は「人、社会そして環境への貢献」を考えた具体的な経営活動・事業活動を積極的に展開していきます。
2. 人と環境に優しい製品の提供
  - 2-1、太陽油脂は、「人と、地球に優しい」に拘った食用油脂製品と石けん製品を通じて、お客様に豊かで「安心・安全な生活」とともに「環境に優しい生活」をも提供していきます。
  - 2-2、太陽油脂は、原料調達・生産から製品使用までの企業活動のあらゆる段階での環境への取り組みにおいて、環境関連法規、自主ルール等を順守しつつ「省資源・省エネルギー」「排水・廃棄物削減、リサイクル」等を継続改善していきます。
  - 2-3、太陽油脂は、「食品廃棄物の発生抑制、再生利用」等による食品資源の有効利用を推進していきます。

太陽油脂は、この環境方針の全従業員への周知徹底を行い、全員参加による環境、社会との調和を目指した企業活動を推進していきます。

2019年 10月 08日  
 太陽油脂株式会社  
 代表取締役社長 中山 悟



実施体制役割説明

**代表者（社長）：**環境経営システムの構築・運用に必要な経営諸資源を準備する  
 環境経営に関する、基本理念、長期戦略及び基本方針等に基づき、環境方針を定める  
 環境経営システムの構築・運用に関する情報を収集し、環境経営システムの見直しを行う

**環境管理責任者：**環境負荷と環境への取組状況の把握と評価を行い、結果を社長に報告する  
 環境関連法規等の取りまとめを行い、結果を社長に報告する  
 環境目標及び環境活動計画の策定を行い、社長の承認を得る  
 各部門（部署）の「環境活動計画・実施状況・評価表」を承認し、活動の推進を図る

**EA21事務局：**環境管理責任者を補佐し、全社環境関連データの集計及び管理保管を行う

**RSPO製品運用チーム：**PSPO製品のトレーサビリティ管理、管理手法の改善運用効率化  
 RSPO（SC認証）維持、中期計画策定・実行

**サステナビリティ・インテリジェンスチーム：**環境・社会・経済における課題の動向調査  
 ステークホルダー（国、自治体、企業、NGO/NPO）との関係構築・連携  
 社内への共有、提案を行う  
 勉強会の設定と実施

**各部門長（各部署長）：**部門（部署）の環境経営システムの構築・運用の責任者としてその任に当たる  
 部門（部署）の従事者に対して、環境経営システムに関する教育・訓練を行う  
 自部門（部署）の「環境活動計画・実施状況・評価表」を作成し、推進する

**環境活動推進委員：**部門（部署）長を補佐し部門（部署）の環境経営システムの事務局として事務手続き等の実務を遂行する

**全従業者：**部門（部署）の推進委員を補佐し部門（部署）の環境経営システムの事務手続き等の実務を遂行する  
 部門（部署）の環境経営システムを理解し食品リサイクル及び環境問題を継続的に改善する活動を行う

## 5 環境目標(2017年度設置)

2013年度～2016年度までの実績を踏まえ、2017年度～2019年度の環境目標は以下の通りです。  
(なお、2016年度～2019年度の二酸化炭素排出係数(東電)は0.491(kg-CO2/kWh)を使用)

(年度:4月～3月 以下同じ)

製品生産量当たり	基準年度実績 2016年度	基準年度比 2017年度目標	基準年度比 2018年度目標	基準年度比 2019年度目標
二酸化炭素排出量 (kg-CO2/t)	235.99	99.00%	97.58% (98.50%を見直す)	96.00%
廃棄物排出量 (t/t)	0.0350	98.00%	97.50%	97.00%
食品廃棄物の発生抑制 (t/t)	0.0255	99.00%	98.50%	98.00%
食品リサイクル リサイクル率(%)	97.36%	97.00% (発生量比)	97.00% (発生量比)	97.00% (発生量比)
排水量 (m3/t)	3.83	86.29%	81.10%	72.80%
化学物質使用量 (kg/t)	0.0502	99.00%	98.00%	97.00%
グリーン購入 (作業着、事務用品、文具の グリーン購入実施率)	(29.7%)	91.47%以上 (発生量比)	94.47%以上 (発生量比)	93.61%以上 (発生量比)
環境配慮設計の要素品の比率 (石けん・化粧品事業)	84%	75%以上 (新規設定量比)	75%以上 (新規設定量比)	75%以上 (新規設定量比)
地域とのコミュニケーション (石けん学習会など)	(77回/年) 回数から参加人数に変更	2,000人/年 (受講者数)	2,100人/年 (受講者数)	2,200人/年 (受講者数)

## 6 環境活動計画(2019年度)

環境活動計画	取組み内容
二酸化炭素排出量削減 <東電:排出係数 0.491kg-CO2/kWh> 2016年度比:96.00%	①工程の時短・作業効率の改善を行い生産性を上げる。 ②事務所用蛍光灯及び屋外灯を計画的にLED照明に更新。 ③全社節電対策(昼休み部分消灯等)6月～10月。クールビズの実施。 ④空調温度、夏(6月～9月)27～28℃、冬(12月～3月)20～22℃の徹底。 ⑤不適合品の発生を削減し生産性を向上し原単位改善。
都市ガス使用量 原単位削減 2018年度比:99.0%以下	①スチームサイクロン(乾き蒸気化)の設定変更し効率を上げる。 ②工程の加熱条件を見直し過剰加熱を修正。 ③蒸気漏れ補修、保温強化し熱エネルギーロスを低減。 ④工程の時短改善を行い生産性を上げる。 ⑤脱臭機を熱効率よい設備設計する(2020年度)。
一般廃棄物排出量 原単位削減 2016年度比:97.0%以下	①一般廃棄物の分別徹底で単純焼却ごみを削減。 ②紙の使用量削減(縮小コピーや両面コピー実施、FAXのメール送信化) ③ゴミの持ち帰り(購入弁当など)
廃白土量削減 2018年度基準に 月195t以下	①品目を選定し投入白土減を推進。 ②小集団活動取組みにて廃白土量を削減。 ③小集団活動取組みにて不適合品を削減。 (廃油、廃脂肪酸量削減)
食品廃棄物 発生量削減 2016年度比:98.0%以下	①加工温度の過剰上昇抑制。 ②賞味期限切れ製品を削減する(無駄のない生産計画)。 ③小集団活動取組みにて不適合品を削減する(廃油、廃脂肪酸量削減)。
食品リサイクル率 97%以上	①再資源化率を監視し、食品リサイクル率97%以上を継続維持。(発生量比)

環境活動計画	取組み内容
総排水量削減 2016年度比:72.8%	水使用量 原単位削減 2016年度比:88.17%以上 ①冷却水の循環利用 ②洗浄方法の見直しや洗浄水の適正使用により水使用量を削減。 ③冷却水の有効利用(再利用)
化学物質使用量削減	化学物質使用量原単位 2016年度比:97.0%以下 ①使用量の適正管理実施。 ②触媒使用量の削減、リサイクルの実施。
グリーン購入推進	グリーン購入実施率 93.63%以上 ①グリーン購入対象品リストに従って、事務用品・文具を購入。 ②購入部署はリストにある備品購入へ誘導。 ※96.47%を93.63%以上に目標見直し(2018年度実績91.63%+2%を設定)
環境配慮設計	環境配慮設計 の要素品の比率 75%以上 石けん化粧品事業 ①化学物質を使用せず石けんをベースにした商品開発 ②RSPOロゴマークを表示したシャンプー、リンス等の販売
地域とのコミュニケーション	地域とのコミュニケーション 2,200人以上/年 ①工場見学会、手作り石けん教室、環境講演会を開催。 ②地域清掃活動の継続実施(本社工場～入江橋周辺)

## 7 環境目標の実績

### ① 二酸化炭素排出量原単位: kg-CO2/t

(2016年度:235.99)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標(%) (数値以下)	—	99.00	97.58	96.0
年度実績(%) : 2016年度比	—	95.52	94.60	93.17
評価	基準	○	○	○
CO2排出量(t)	15,140	15,099	15,684	15,412

(目標以下○)

### ② 総廃棄物量原単位: t/t

(2016年度:0.035)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標(%) (数値以下)	—	98.00	97.50	97.0
年度実績(%) : 2016年度比	—	100.10	99.88	96.95
評価	基準	未達成	未達成	○

(目標以下○)

### ③ 食品廃棄物発生量原単位: t/t

(2016年度:0.0255)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標(%) (数値以下)	—	99.00	98.50	98.0
年度実績(%) : 2016年度比	—	100.39	96.03	101.26
評価	基準	未達成	○	未達成

(目標以下○)

#### ④ 食品リサイクル率 (%)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%) (数値以上)	—	97.00	97.00	97.0
年度実績 (%) : 発生量比	97.37	97.10	97.11	97.11
評価	基準	○	○	○

(目標以上○)

(内訳)

①発生量 (t)	1,775	⑤減量量 (t)	0
②発生抑制量 (t)	0	⑥再生利用等以外の量 (t)	0
③再生利用量 (t)	750	⑦廃棄物としての処分量 (t)	0
④熱回収量 (t)	1,024	再生利用等の実施率 (%)	97.11

#### ⑤ 総排水量原単位 : m<sup>3</sup> / t

(2016年度 : 3.8304)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%) (数値以上)	—	86.29	81.10	72.80
年度実績 (%) : 2016年度比	—	91.79	80.99	73.42
評価	基準	未達成	○	△

(目標以下○)

#### ⑥ 化学物質使用量原単位 : kg / t

(2016年度 : 0.0502)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%) (数値以下)	—	99.00	98.00	97.00
年度実績 (%) : 2016年度比	—	97.56	98.11	84.79
評価	基準	○	△	○

(目標以下○)

#### ⑦ グリーン購入実施率 (%) (作業着、事務用品、文具のグリーン購入実施率)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%) (数値以下)	—	現状調査	94.47 (+3)	93.63
年度実績 (%) : 発生量比	—	91.47	91.63	93.69
評価	—	○	未達成	○

← 2018年度実績+約2%増 (目標修正)

(目標以上○)

#### ⑧ 環境配慮設計 (石けん化粧品事業) : 品/品・年

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%) (数値以上)	—	75.0	75.0	75.0
年度実績 (%) : 新規設定量比	84.0	100.0	100.0	97.0
評価	基準	○	○	○

(目標以上○)

#### ⑨ 地域とのコミュニケーション (石けん学習会など) : 人/年

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
年度目標 (%) (数値以上)	—	2,000	2,100	2,200
年度実績 (%) : 受講者数	—	1,542	1,926	1,748
評価	—	未達成	△	未達成

(目標以上○)

(評価方法)  
 ○ : 達成 目標値達成  
 △ : 概ね達成 (あと一步) 目標値に達していないが80%の変化がある  
 × : 未達成 目標値未達成



## 8 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組

環境活動計画	取組結果とその評価・次年度の取組
二酸化炭素排出量削減 <東電: 排出係数> 0.491kg-CO2/kWh [目標] 2016年度比: 96.00% [結果] 93.17% (評価: ○達成)	電気使用量 原単位削減 2017年度比: 99.0% (旧2016年度比: 99.0%)  都市ガス使用量 原単位削減 2018年度比: 99.0% (旧2016年度比: 98.7%)  目標 (2017年度比: 99.0%) ⇒ 結果 (98.06%) (2019年度評価: ○達成) <次年度取組> ①消灯やクールビズなど小集団活動取組にて不適合発生の削減や製造条件の見直しする事で無駄な又は過剰なエネルギー使用を削減する。 ②無駄な電気使用削減の取組を継続実施する。 ③設備の計画保全を実施し設備起因のロスを削減する。 ④「RE100」に向けた情報整理と導入計画を設置する。  目標 (2018年度比: 99.0%) ⇒ 結果 (98.05%) (2019年度評価: ○達成) <次年度取組> ①作業改善・加熱温度適正化により蒸気の使用量を削減する。 ②不適合発生を削減し、再製造等で発生する無駄なエネルギー使用を削減する。 ③設備改修に合わせ熱交換・熱の効率的な利用を備えた機能導入。
廃棄物排出量削減 [目標] 2016年度比: 97.0% [結果] 96.95% (評価: ○達成)	一般廃棄物排出量 原単位削減 2016年度比: 97.0%以下  廃白土量削減 2018年基準に 月195t以下 (旧2016年度比: 44t減)  目標 (2016年度比: 97.0%) ⇒ 結果 (99.81%) (2019年度評価: ×未達成) <次年度取組> ①リサイクル化対象物を選定し、発生元から分別先の運用ルールを設置する。 ②在宅勤務の推進やWeb会議など電子情報利用で紙含む廃棄物減する。 ③ごみの分別状況を点検し、回収箱の表示強化・レイアウト変更を行う。  目標 (月発生量195t以下) ⇒ 結果 (189t) (2019年度評価: ○達成) <次年度取組> ①廃白土吸着油を削減する案を実行する。 ②製造頻度の高い品目や配合変更がある品目を主に色調管理し白土量削減。
食品廃棄物 発生抑制 [目標] 2016年度比: 98.00% [結果] 101.26% (評価: ×未達成)	食品廃棄物 発生量削減 2016年度比: 98.0%  食品リサイクル率 97.00%以上  目標 (2016年度比: 98.00%) ⇒ 結果 (101.26%) (2019年度評価: ×未達成) <次年度取組> ①製造現場の収率改善の取り組みを推進させる。 ②油水分離回収設備導入し食品廃棄物を削減する。 ③製造条件を環境配慮設計のもと改定を進める。  目標 (97.00%) ⇒ 結果 (97.11%) (2019年度評価: ○達成) <次年度取組> ①再資源化率の監視活動を継続実施する。
総排水量削減 [目標] 2016年度比: 72.80% [結果] 73.42% (評価: △概ね達成)	水使用量 原単位削減 2016年度比: 88.17%  目標 (2016年度比: 88.17%) ⇒ 結果 (74.82%) (2019年度評価: ○達成) <次年度取組> ①冷却水を計画的に循環方式に変更する。 ②屋上排水経路を見直し増設する。
化学物質使用量削減 [目標] 2016年度比: 97.00% [結果] 84.79% (評価: ○達成)	化学物質使用量原単位 2016年度比: 97.00%以下  目標 (2016年度比: 97.00%) ⇒ 結果 (84.79%) (2019年度評価: ○達成) <次年度取組> ①使用量適正管理を継続実施する。 ②化学物質使用機器の更新など機能UPを行い使用量の縮小を図る。
グリーン購入推進 [目標] 93.63%以上 [結果] 93.69% (評価: ○達成)	グリーン購入 実施率推進 (2018年度実施率 91.63+2.0%: 93.63%)  目標 (93.63%以上) ⇒ 結果 (93.69%) (2019年度評価: ○達成) <次年度取組> ①グリーン購入対象品をリスト化 (明確化) すると共に運用手順書を周知する。
環境配慮設計 [目標] 75%以上 [結果] 97% (評価: ○達成)	環境配慮設計 (75%以上) 石けん化粧品事業  目標 (75%以上) ⇒ 結果 (97%) (2019年度評価: ○達成) <次年度取組> ①石けん化粧品の自社製品はRSP0100%、FSC100%対応を目指す。 ②環境配慮設計を追加した製品化率75%以上を維持する。
地域とのコミュニケーション [目標] 2,200人以上/年 [結果] 1,748人/年 (評価: ×未達成)	地域との コミュニケーション (2,200人以上/年)  目標 (2,200人以上/年) ⇒ 結果 (1,748人/年) (2019年度評価: ×未達成) <次年度取組> ①工場見学会、手作り石けん教室のWeb方式開催、参加人数増を図る。 ②PR委員会発信の環境活動広報により石けん教室参加者増を図る。

(評価について)  
 ○ : 達成 目標値達成  
 △ : 概ね達成 (あと一步) 取組が開始されており、目標値に達していないが概ね (達成率80%程度) 削減或いは抑制効果が確認されている  
 × : 未達成 目標値未達成 (80%未滿)

### 1) 主要な取り組みの総括評価

地球温暖化対策となるエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量削減は、蒸気改質装置の導入効果が原単位改善につながっている。また装置導入の効果検証で実施した工程ごとの蒸気使用量の管理強化で、不具合箇所の発見と改修が進み、蒸気使用量の削減となった。

廃棄物削減は、一般・食品廃棄物量が5S活動などで発生した不要物の処分があり増加しているが、廃白土量を抑制する取り組み効果が現れ、総廃棄物量の原単位改善につながった。

水・化学物質使用量削減は高い目標を設定してきたが、各部門の管理強化や運用を改善する地道な活動により削減につながっている。

環境活動と各部門の実行計画 (経営目標) の連携が進み、環境負荷削減が無理なく改善できている。

## 9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

### 1) 適用法令等の順守状況の確認及び評価の結果

適用法令等	対象施設	遵守状況の確認及び評価の結果	遵守状況
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	全社	「公害防止統括者（同代理者）選任・解任届出書」、「大気関係公害防止管理者（同代理者）選任・解任届出書」、「水質関係公害防止管理者（同代理者）選任・解任届出書」	○
大気汚染防止法	ボイラー、悪臭、ガスタービン	「ばい煙発生施設（使用、変更）届出書」排煙（Noxの許容限度）の規制基準	○
横浜市生活環境の保全等に関する条例（横浜市環境保全協定含む）		「指定事業所設置許可申請書」、「指定事業所に係る変更許可申請書」年2回Nox測定、定期報告 異常時の処置と対策	○
水質汚濁防止法	排水処理設備	「特定施設設置（使用、変更）届出書」、「特定施設使用等開始報告書」排水規制基準、水質測定、定期報告	○
横浜市生活環境の保全等に関する条例（横浜市環境保全協定含む）		公共用水域に排出される排水の規制基準 異常時の処置と対応	○
騒音規制法	圧縮機	基準遵守、工業専用地域の為対象外	○
振動規制法	全社	基準遵守、工業専用地域の為対象外	○
工場立地法	生産施設、緑地	生産施設、緑地の確保	○
消防法	屋内貯蔵所	「危険物貯蔵所設置許可申請書」「指定可燃物貯蔵・取扱開始届出書」	○
	指定可燃物（タンク）	年2回の消防用設備定期点検。	
	少量危険物（薬品庫）	「少量危険物貯蔵開始届出書」指定数量内の貯蔵、施設の点検、防災訓練強化	
浄化槽法	浄化槽	「浄化槽設置計画書」年1回の定期検査、年2回の清掃	○
海洋汚染防止法	全社	「油脂保管量報告」	○
横浜市福祉のまちづくり条例	建物、トイレ、スロープ等	「整備基準適合証」	○
横浜市駐車場条例	構内駐車場	「附置義務駐車施設（設置、変更）届出書」	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR法）	化学物質	「第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出書」	○
PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	コンデンサ	「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の保管及び処分状況等届出書（保管事業者用）」	○

適用法令等	対象施設	遵守状況の確認及び評価の結果	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物置き場	「産業廃棄物管理票交付等状況報告書」マニフェスト管理 「産業廃棄物処理計画」廃棄物置き場での掲示済み	○
横浜市廃棄物等の減量化、資源化及び適正処理等に関する条例（規則）	全社	「産業廃棄物排出状況報告書」	○
高圧ガス保安法	冷凍設備	特定施設届出、規制基準値内、危害予防規定提出 危害予防規定届出、冷凍保安責任者を選任届出	○
改正フロン排出抑制法	全社	簡易点検（1回/3ヶ月以上）・有資格者による定期点検（7.5kw以上）	○
省エネ法（エネルギーの使用の合理化に関する法律）	全社	CO2換算で温室効果ガス排出算出 排出量の定期報告（省エネ法定期報告で代用）	○
温対法（地球温暖化対策の推進に関する法律）	全社	「エネルギー管理統括者／エネルギー管理企画推進者選任届出書」、「エネルギー管理者選任届出書」 「定期報告書」、「中長期計画書」（平均1%以上/年のエネルギー消費原単位低減努力）	○
容器包装リサイクル法	工場	再商品化義務、再商品化委託料金の算出、識別表示 「再商品化委託契約申込書」（財）日本容器包装リサイクル協会）	○
食品リサイクル法	工場、倉庫	食品廃棄物の再生利用、削減計画、報告	○
労働安全衛生法	全社、分析部署	健康診断（特殊検診含む）、有機溶剤中毒予防規則の遵守…問題なし	○

### 2) 違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反はありません。また、関係当局より違反の指摘及び訴訟は過去、3年間ありませんでした。

## 10 代表者による全体評価と見直しの結果

2019年度は創業100周年という節目を迎え、歴史を振り返って感謝を行い未来に向かって更なる飛躍を宣言する重要な1年でありました。

環境経営は企業価値の維持向上に重要な活動であり、主目標のひとつCO2削減が目標値達成できたことは喜ばしい結果と評価します。しかし101年目を迎えるに向けて、新たな手立てを明確に設定していかないと後戻りしますから、チャレンジングな課題を設定しそれに向かう計画を策定すべきと考えます。他の環境活動も含め、引き続き全員参加で結果を出していきます。

また2020年度に立ち上げたPR委員会を軸にコーポレートサイトを改定するなど太陽油脂の活動を広く世に発信し、全員参加で実現した結果を共有、自他共に企業価値を感じられるトップスローガン「Public Relations 101」を掲げます。これは「つながり」を大事にすることを強調しており、お客様・学生・地域・従業員など事業活動に関係する方は勿論のこと、誰もが笑顔で暮らせる未来の創生に貢献していくことを示しています。

「太陽の恵み 人にやさしく地球にやさしく」の意味を改めて見つめ、次の100周年でも輝き続ける太陽油脂であるよう一歩一歩課題をクリアしていきます。

2019年度は創業100周年であることも踏まえ、これまで培ってきた環境活動の棚卸しを行い、それらがSDGs（持続可能な開発目標）の視点では、どのように連携しているのかを整理しました。太陽油脂の環境活動は様々な形で、SDGsと連携できる活動となっていることが分かりました。今後も「太陽の恵み 人にやさしく地球にやさしく」のもと環境経営活動を活性化していきます。

太陽油脂は、SDGs（持続可能な開発目標）を支援しています。

1) 地球温暖化対策、省エネルギー活動

●エコアクション21

環境省が策定した環境マネジメントシステムを認証登録。環境経営実現の一活動として継続実施、今年で11年目。二酸化炭素、廃棄物、排水などの環境負荷量を把握し、これらを削減する改善活動を継続的に進めています。



●エネルギー管理指定工場

省エネ法が1979年（昭和54年）に制定時から太陽油脂は、省エネルギー活動を盛んに行っており、熱交換設備、インバーター制御、ボイラ台数制御、コージェネレーション発電設備、蒸気改質装置導入など原単位の改善を継続的に実施しています。

これらはエコアクション21やSDGsの目標達成に向けた活動となり今後も強化していきます。



●アース・アワー（Earth Hour）in Yokohama

3月最終土曜に工場内のライトダウンを実施。（2020年3月28日（土） 20時30分～ 21時30分）

世界で同じ日・同じ時刻に電気を消すことで（ライトダウン）、「美しい地球を残したい」「地球の環境を守りたい」という想いを消灯のボタンでつなぐ世界規模の環境キャンペーンである、世界自然保護基金（WWF）と横浜市の協働活動に参加、実施。

2) 自然環境保護活動

●石けん教室

太陽油脂は一般の個人の方や団体の方に向けて、石けん工場見学会を開催しています。石けんを通じて、環境・社会問題を学ぶ講義を工場見学や出張授業で実施。石けんの環境への影響や持続可能なパーム油について学ぶ機会をつくることで、エシカルな消費の大切さを伝えています。

内容

- ①製品を身近に感じることができる石けん工場の見学
- ②石けんの起源から現代的な使用方法までを整理した石けん基礎講座開催
- ③実験による石けんの性質の確認（汚れ落ち、環境への影響、使用のコツ）
- ④石けんから考えるSDGsのお話
- ⑤植物油（オリーブ油、パーム油など）を使用したペットボトル石けん作り（小さいお子様向けに、石けんチップを使った手ごねの石けん作り）

対象（参加団体）

- 生協（バルシステム生活協同組合連合会、コープ自然派事業連合、ナチュラルコープヨコハマ、なのはな生協、グリーンコープ連合など）
- 行政・学校（子安小学校、神奈川小学校、神奈川区役所、学童保育所など）
- 共同購入・店舗（大地を守る会など）
- 一般団体（NPO法人、消費者団体など）
- 一般消費者（個人参加）

参加人数：合計1,748名（平均27名/回）

※地域の小学校では総合学習の一環として、「石けん教室」を開催しています。クイズを交えた石けんのお話や、石けん作り、性質がよくわかる実験を通して、子供たちが楽しみながら環境についての学習ができました。



●持続可能なパーム油の調達（RSPO） ※RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）普及（Roundtable on Sustainable Palm Oil）

パームの生産に関係する環境や社会、経済を維持する“持続可能性（サステナビリティ）”のあるパーム油の生産と使用を推進することを目的としている国際的な非営利組織に2011年3月より正会員として加盟（正会員、国内11社目）。

現在に至るまで、RSPOの原料の購入と、その重要性をアピールしてきました。

RSPOの認知度が高まるに従いお客様からの問い合わせが増えており、これらの対応含め、各所で説明会を開催。

今後もRSPOの重要性を踏まえ、企業理念の「太陽の恵み人にやさしく地球にやさしく」を意識した製品を提供していきます。

太陽油脂の進捗状況はwww.rspo.orgを参照ください（英文サイト）。

（太陽油脂情報は、https://www.rspo.org/members/779/taiyo-Yushi-Corpにて）



●環境配慮設計商品の開発

最近の環境変化に伴い、日常使用している洗浄剤や化粧品で、地球環境に配慮し、肌に優しい商品へのニーズが高くなっています。石けん・化粧品開発グループでは、環境にやさしい石けん・化粧品製品を下記基準を設け開発しています。

本年度は赤ちゃんのお肌を「花粉」「PM2.5」「乾燥」から守る「バックスベビー おでかけケアクリーム」と従来のバックスナチュロンUVクリームよりSPF値（\*1）がUPした「バックスナチュロン UVクリームSPF30」を発売。本年度に開発した商品は、全て下記の『環境配慮設計の基準』を満たし、オーガニック認証としては、『JONA認証準会員』を製造工場と一部製品で更新を継続しています。

\*1.SPF値 「Sun Protection Factor（紫外線防御効果）」を数値化したもので、肌が赤くなる日焼けの原因、紫外線B波を防ぐ指標とされている。

環境配慮設計の基準

- ①医薬部外品の表示指定成分の有害性の指摘のある合成化学物質は使用せず石けんなどの生分解性の良い原料を使用する。
- ②商品は常圧以下かつ約100℃以下の温度で製造する。
- ③梱包用の段ボールなどリサイクルできる素材を採用し、廃棄時に有害物質を排出するプラスチック素材は使用しない。



### 3) 地域の生活環境改善活動

#### ●地域への貢献

##### 〈清掃活動〉

地域貢献活動として、太陽油脂から国道までの道路周辺を毎週清掃しています。

2019年度は50回（月平均4回以上）の清掃を実施。（2016年度49回、2017年度47回、2018年度52回）



= 清掃範囲(正門から国道まで)

##### 〈町内会への協力〉

毎年夏に行われる町内会イベントへ、協賛品として「パックスナチュロンクリームソープ（スイートローズ）」2ケース、「パックスナチュロンキッチンスポンジ」2ケースを寄付。

町内会イベントでは、主にお祭りの準備・運営・後片付けに参加し、地域活性化の協力を行っています。（近隣の3箇所の町内会）

##### 〈横浜FCとECOパートナー〉

選手が汗を流すお風呂場に液体石けんの製品を設置、ユニフォームの洗濯には粉石けんを提供。石けん製品の生分解性など、環境配慮を通じスポーツを支援しています。

2020年2月、大黒埠頭に停泊中のダイヤモンドプリンセス号にて諸作業をされている消防署職員の方々用に、手の洗浄剤として当社ハンドソープ20c/sを寄付。横浜市消防局より感謝状を頂戴しました。（2020年3月17日）



神奈川消防署星野署長と中山社長

横浜市子ども青少年局（子ども福祉保険部子ども家庭課児童虐待・DV対策）連携ハンドクリーム類やボディソープ、固形石けん等を2019年7月、12月に寄付。

横浜市長（林 文子様）より感謝状を頂戴しました。（2020年3月31日）



横浜市青少年子ども局出口副局長と中山社長

### ◎会社沿革

- 1919年（大正8年） 東京搾油株式会社として発足（主として南洋特産コブラの搾油）
- 1936年（昭和11年） 南洋貿易株式会社と合併
- 1939年（昭和14年） 石けんの生産開始
- 1947年（昭和22年） 太陽油脂株式会社として創立
- 1948年（昭和23年） 石けんシャンプーの商標を「パックス」に決定
- 1950年（昭和25年） 我が国初のショートニング製造実用化と販売開始
- 1970年（昭和45年） ペストリー・パイ用シートマーガリン販売開始
- 1971年（昭和46年） 鐘淵化学工業株式会社（現 株式会社カネカ）と業務提携
- 1972年（昭和47年） ホイップクリーム用シリーズ販売開始
- 1973年（昭和48年） コーヒークリーム用シリーズ販売開始
- 1982年（昭和57年） CI（企業理念）導入、社章（日の出マーク）制定
- 1985年（昭和60年） フィリング・トッピング用「メルファー」シリーズ販売開始  
関係会社「太陽サービス株式会社」創立
- 1989年（平成元年） 「パックスナチュロン」石けんシリーズ販売開始
- 2003年（平成15年） HACCP認証取得（加工油脂）
- 2004年（平成16年） ISO9001:2000（食用加工油脂）取得
- 2006年（平成18年） 「パックスオーリー」石けんシリーズ販売開始
- 2008年（平成20年） 「パックスベビー」石けんシリーズ販売開始
- 2009年（平成21年） エコアクション21 認証・登録
- 2011年（平成23年） RSPO加入
- 2013年（平成25年） FSSC22000（食用加工油脂）取得  
SC認証（RSPO）取得  
基礎化粧品シリーズ「素肌レシピ」オーガニック・コスメ販売開始
- 2014年（平成26年） SO22716（化粧品GMP）取得（石けん・化粧品）
- 2017年（平成29年） 創立70周年を迎える
- 2018年（平成30年） ISO9001:2008（石けん・化粧品）取得
- 2019年（令和元年） 創業100周年を迎える



太陽油脂株式会社